

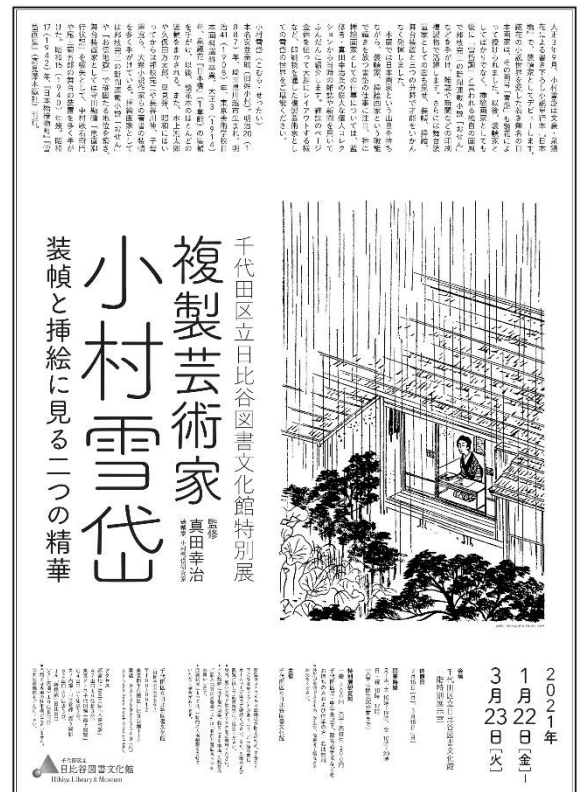
日比谷図書文化館 特別展

複製芸術家 小村雪岱 ~装幀と挿絵に見る二つの精華~

日比谷図書文化館では、2021年1月22日（金）より特別展「複製芸術家 小村雪岱 ~装幀と挿絵に見る二つの精華~」を開催いたします。

大正3年9月、小村雪岱は文豪・泉鏡花による書き下ろし小説単行本『日本橋』で、装幀家としてデビューします。鏡花の小説世界を愛した若き無名の日本画家は、その画号「雪岱」も鏡花によって授けられました。以後、装幀家としてばかりでなく、挿絵画家としても後に「雪岱調」と言われる独自の画風で邦枝完二の新聞連載小説「おせん」などを手がけ、雑誌や新聞などの印刷複製物で活躍します。さらには舞台装置家としての面も見せ、装幀、挿絵、舞台装置と三つの分野で才能をいかんなく発揮しました。

本展では日本画家という出自を持ちながら、装幀家、挿絵画家という職能で輝きを放つ雪岱の仕事に注目、特に挿絵画家としての仕事については、監修者・真田幸治氏の膨大な個人コレクションから当時の雑誌や新聞を用いてふんだんに紹介します。雑誌のページ全体を使って大胆にレイアウトする様など、印刷物を通した複製芸術家としての雪岱の世界をご堪能ください。



「複製芸術家 小村雪岱:装幀と挿絵に見る二つの精華」告知ポスター

2020年(デザイン:白井敬尚)

開催概要

会期:2021年1月22日(金)~3月23日(火) ※休館日2月15日(月)、3月15日(月)

観覧時間:月曜~木曜 10:00~19:00、金曜 10:00~20:00、土曜 10:00~19:00、日・祝 10:00~17:00

※入室は閉室の30分前まで

会場:千代田区立日比谷図書文化館 1階特別展示室

観覧料:一般300円、大学・高校生200円

千代田区民・中学生以下、障害者手帳などをお持ちの方および付き添いの方1名は無料

※住所が確認できるもの、学生証、障害者手帳などをお持ちください。

主催:千代田区立日比谷図書文化館

監修:真田 幸治(装幀家、小村雪岱研究家)

展示構成

I. 【鏡花本】

画家たちが美しい装幀をほどこした泉鏡花の著書は〈鏡花本〉と言われ高く評価されている。小村雪岱は装幀家デビュー作である『日本橋』以降、ほぼすべての装幀を任された。鏡花によって生み出された芸術家「小村雪岱」は、まさに鏡花本の申し子と言える。



泉鏡花『日本橋』千草館、1914年

II. 【新聞連載小説の挿絵】

この時代、新聞連載小説は挿絵画家にとって花形の仕事であった。独自の画風〈雪岱調〉を獲得した雪岱は、邦枝完二の「おせん」や「お云地獄」で挿絵画家の名声を確立する。本展では新聞連載小説の挿絵を実際の新聞（切り抜き）で展覧する。



「喧嘩鳶」『東京日日新聞』『大阪毎日新聞』、1938—39年

III. 【雑誌の挿絵】

小村雪岱が挿絵画家として最も活躍したのは大衆雑誌であり、独自の画風〈雪岱調〉をもって、鬻物<sup>まげもの</sup>といえは雪岱という評価が定着する。本展ではこれら大衆雑誌を数多く展示し、印刷された描線とその画風の変遷など複製芸術家小村雪岱の世界を当時の読者たちと同じように体感してもらいたい。

IV. 【九九九会の仲間たちの装幀本】

雪岱も会員である泉鏡花を中心とした会合〈九九九会〉は、会員に岡田三郎助、水上瀧太郎、里見淳、久保田万太郎、鏡木清方などが名を連ね、雪岱は会員の装幀も引き受けていた。鏡花人脈を通して広がっていた雪岱の装幀世界を見渡す。



鏡木清隆『銀砂子』国文堂書店、1934年

V. 【資生堂意匠部】

資生堂は大正6年（5年とも）に意匠部を設立し、「日本調」のデザインを求め、これに応える形で大正7年に雪岱が入部した。『銀座』の装幀や挿絵、雑誌『花椿』の挿絵などを手がけたが、雪岱が資生堂に残した最も大きな仕事は、現在も続く〈資生堂書体〉の源流として〈雪岱文字〉を持ち込んだことであった。

VI. 【大衆小説作家の装幀本】

昭和に入ってから雪岱の装幀の仕事は、邦枝完二や長谷川伸、子母澤寛、村松梢風ら大衆作家たちの割合が増えていく。その一端を担っていた島源四郎の新小説社との深いかわりを紹介する。



村松梢風「浪人倶楽部」挿絵下図『読売新聞』1935—36年

関連講座 ※ 2021年1月5日(火)より受付開始

## 「複製芸術家 小村雪岱」

多彩な雪岱の活動の中でも特に挿絵の仕事に注目する本展のテーマに合わせて、本展監修者の真田幸治氏が印刷された複製芸術としての雪岱の挿絵の魅力について語ります。

- 日時：2021年2月13日(土) 14:00～15:30 (13:30開場)
- 場所：日比谷図書文化館 地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 講師：真田 幸治(装幀家、小村雪岱研究家)
- 定員：60名(事前申込順、定員になり次第締切)
- 参加費：500円
- お申込み方法：ホームページの申込みフォーム、電話(03-3502-3340)のいずれかにて①講座名、②お名前(ふりがな)、③電話番号をご連絡ください。



長田秀雄「三升蛇姫録」『講談雑誌』、1935年

画像の使用につきましては「画像申請書」をご用意しております。ご希望の場合には広報担当までご連絡ください。

[ご来館時のお願い]

- 館内では必ずマスクをご着用ください。
  - ご入館時には手指の消毒、職員による検温、入館票のご記入(「貸出券番号」または「名前と電話番号」)をお願いします。
- ※ 今後の新型コロナウイルス感染拡大状況により、変更となる場合がございます。あらかじめご了承ください。

〈お問い合わせ先〉

日比谷図書文化館 広報担当：並木 namiki-yuri@shopro.co.jp、高野 takano-yuta@shopro.co.jp  
〒100-0012 東京都千代田区日比谷公園 1-4 TEL：03-3502-3340 / FAX：03-3502-3341  
ホームページ：https://www.library.chiyoda.tokyo.jp/hibiya/